

スポーツマネジメント学部 学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

スポーツマネジメント学部の元となるライフマネジメント学科の過去 5 年間の志願者数及び入学者数の推移を見ると、募集人数に対する志願者数は平均約 1.04 倍、入学者数は平均約 0.95 倍となっており、増減はあるが定員管理に努めている。なお、ライフマネジメント学科にコースとしてスポーツを設けており、直近 5 年間に於いて同学科の 9 割を超える入学者がスポーツコースに在籍している。【資料 1】

また、同分野を有する近隣大学の志願動向調査（②表 1）を見ると、近年募集人数を大きく上回る志願者が集まっていることが分かる。【資料 2】

以上の結果から、新たにスポーツ分野に特化した学部設置を行うことは、確実に大学全体の活性化に繋がると予測できる。従って、本学部の定員設定については、ライフマネジメント学科の定員と同数の 160 人とすることを決定した。決定に当たっては、教育環境の整備、教育の質の担保及び確実な定員充足が見込まれることを重視した。定員充足の見込みについては、客観的なデータに基づき検討を行うため、以下の通りアンケート調査を行っている。

本学入学者の出身地域割合は、埼玉県、東京都、千葉県が 62.7%を占めている（平成 30 年 5 月 1 日現在）。【資料 3】

そこで、この 1 都 2 県の高等学校の 1、2 年生（平成 30 年 8 月時点）521 人を対象に、アンケート調査を行った。そのうち、スポーツに興味を持っている生徒は 107 人（20.5%）であり、受験意向（②表 2）を確認したところ、スポーツマネジメント学部への受験を検討してもよいという生徒が 107 人中 65 人（60.7%）おり、そのうち 10 人（9.3%）が積極的な受験意向を示していると分かった。【資料 4】

平成 30 年度学校基本調査によると、上記 1 都 2 県の高等学校数は全部で 806 校（②表 3）となっている。今回の調査をその全ての学校で行ったと仮定するならば、1 都 2 県全体では 432 人にスポーツマネジメント学部への受験意向があると思われ、定員を充足できる受験者数の確保は十分に可能であり、160 人という数字は妥当であると判断した。

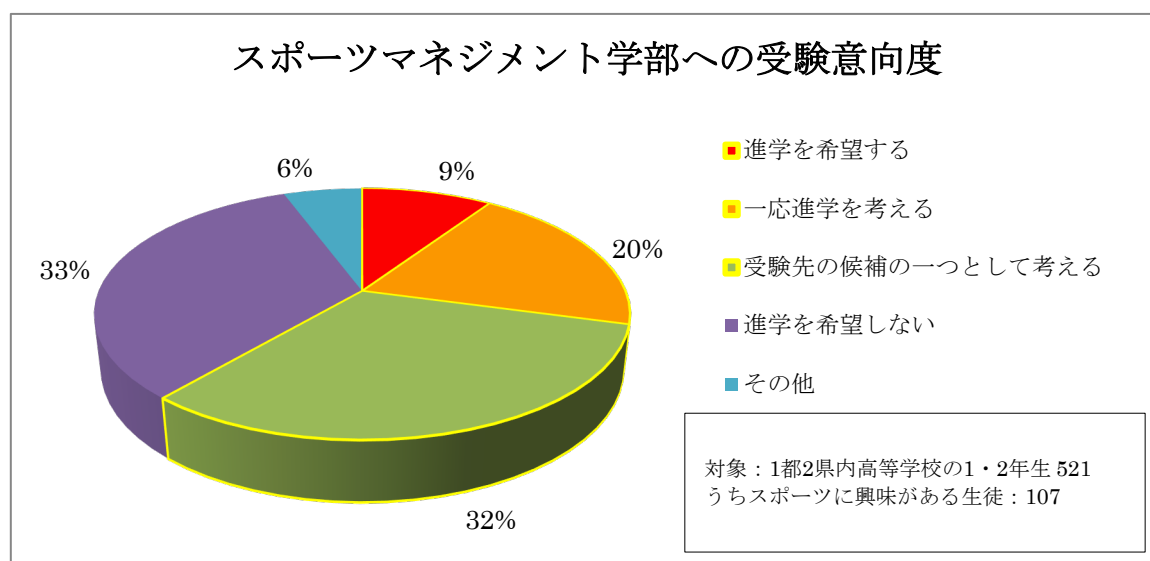
過去の志願者推移に加え、この結果も勘案すると、開設次年度以降も長期的かつ安定的なニーズがあるとの見通しが立つ。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

《表 1》同分野を有する近隣大学の志願動向

大学名	学部・学科名	平成29年度			平成30年度		
		募集	志願	倍率	募集	志願	倍率
順天堂大学	スポーツ健康科学部スポーツマネジメント学科	80	804	10.1	80	1,008	12.6
上武大学	ビジネス情報学部スポーツ健康マネジメント学科	260	383	1.5	310	360	1.2
日本体育大学	スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科	平成30年度開設			145	1,100	7.6

《表 2》スポーツマネジメント学部への受験意向調査



《表 3》平成 30 年度学校基本調査より 都道府県別高等学校数（本校のみ）

都道府県名	東京	千葉	埼玉	合計
校数	429	183	194	806

③ 学生納付金の設定の考え方

スポーツマネジメント学部の学生納付金は、入学金 200,000 円、授業料 800,000 円、教育充実費 280,000 円、合計 1,280,000 円とする。ライフマネジメント学科を参考に、また同分野を有する近隣大学の状況と比較検討し、金額の設定を行った。また、学生納付金に相応した教育研究を維持すべく、授業内容並びに設備、学生サポートの充実に努めていく。【資料 5】

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学では学生確保に向け、教職員による高等学校への訪問、高等学校進路指導教員を対象とした大学説明会の開催、入試説明会やオープンキャンパスでの教職員一体となった運営の実施等、きめ細かい取組みを行い、確実な成果を挙げてきた。同様に、スポーツマネジメント学部についても、構想中と明示した上で広報活動を行っており、参加者や高等学校教職員からも高い期待が寄せられている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育上の目的（概要）

スポーツマネジメント学部は、多角的な視点からスポーツに対する理解を深め、現代社会における多様な課題を探究、解決できる人材を養成すること、また、マネジメントの視点から、スポーツにおける多様な価値を実践的、論理的に追求する教育研究を行うことを目的とする。

(2) 社会的、地域的人材需要の根拠

ライフマネジメント学科の平成 29 年度及び平成 30 年度就職内定率は平均 95.3%となっており、比較的高い内定率を維持している。

また、内定先業種比率を見てみると、サービス業、卸売業、小売業をはじめ、不動産、教育、情報通信、福祉、公務員まで多業種にわたる就職先があり、企業も多く開拓されている。【資料 6】

上記企業のうち、本学部の主な進路先となる首都圏のスポーツ関連企業・関係機関等へ採用意向調査を行い、52 社からの回答を得た。その結果、他大学他学部同様に応募を受け付けるという回答を含めると 100%の企業が本学部卒業生の採用意向を示しており、その内 12%が採用したい、69%が積極的に採用したいと回答している。このことは、スポーツマネジメント学部においても同様の社会的需要があると見込まれる。【資料 7】

また、本学部専門科目である「スポーツマネジメント実習」では、学生自身が職業適性やキャリアデザインにおける職業選択について深く考える契機とし、高い職業観や就業観の涵養や時代の変化に対応できる基礎的・汎用的能力が育成されるよう、スポーツ関連企業等の現場において就業体験を行う。この授業について、企業等から 211 人の受け入れの承諾を得ることができた。

【資料 8】

上記のことから、スポーツマネジメント学部の養成する人材が、関連分野の企業・機関等の求める人材と一致していること、また教育内容に対しての期待が大きいことを示している。